

# 小正月

松岡隆子

水涸れて等間隔の杭の数  
枯葦の枯の極みの透きとほる  
薄暮とふ漂ひごころ雪螢  
思ひ出は淡きがよけれ帰り花  
一陽来復星々の相寄り  
水際の日差し粒なすクリスマス  
松立てて路地の日差しの鮮しく

一 齊 に 光 こ ぼ し て 初 雀

掌 に 享 け て 水 や は ら か き 初 社

松 取 れ て 朝 な 夕 な の 路 地 を 掃 く

ひ と 日 ま た 何 処 に も 行 か ず 餅 焦 が す

日 溜 り の 雀 の 数 も 小 正 月

再びの緊急事態宣言と強力な寒波に見舞われ、心身ともに寒い一月となった。一向に衰える気配のない感染拡大、もう少しもう少しと耐えてきたのにまた先が見えなくなつた。暫く句会も休会せざるを得ない。些か虚しくなつてくる。気を取り直して外に出てみた。夜空は青く澄みきつていて、頬を流れる冷気が心地よかつた。(初氷夜も青空の衰へず)。ふと先生の句が口をついて出た。何かが吹つ切れた思いで、部屋に戻つてまた選句を始めた。これが終わつたら皆さんのハガキ投句の選をしよう。窓を開けてもう一度夜空を仰いだ。